

## 令和元年度リコール届出分析 概要

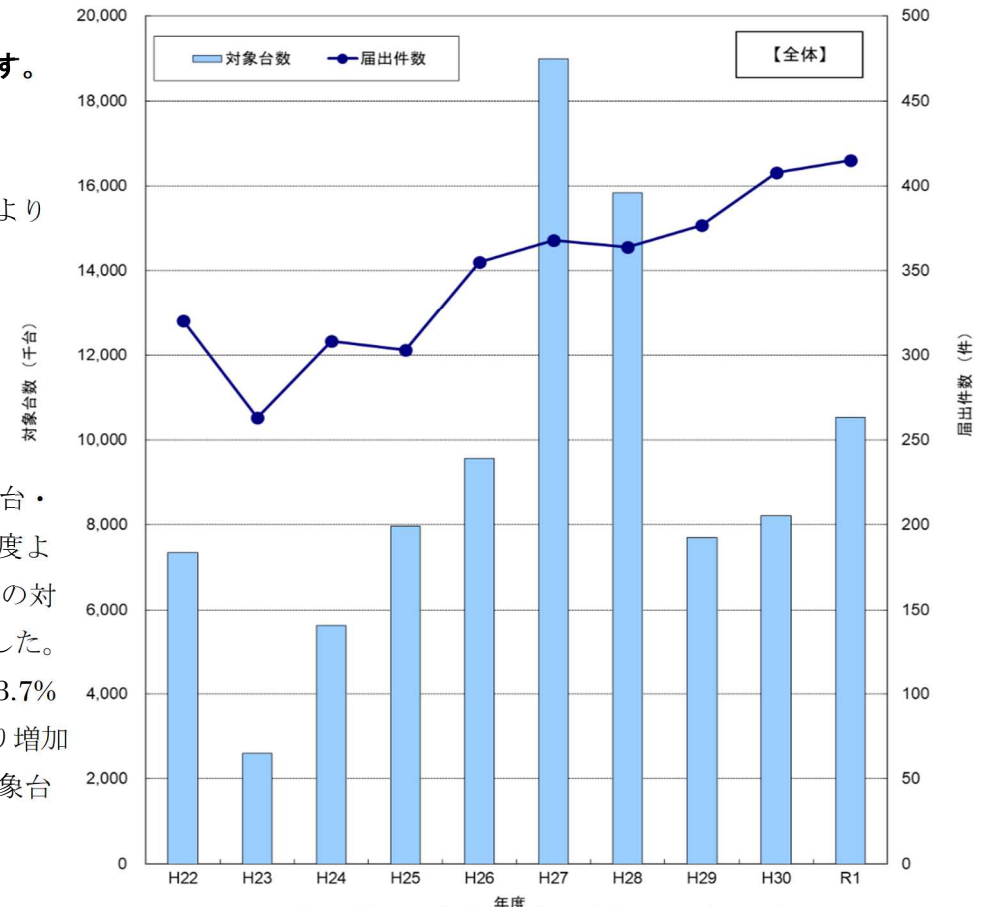
### 令和元年度の分析概要

(注) カッコ内は、前年度の数値又は前年度との増減率を示す。

#### 1. 自動車のリコール届出

##### ①リコール届出件数及び対象台数

- ・リコール届出件数は、415 件 (408 件・1.7%増) で、前年度より 7 件増加した。
- ・リコール対象台数は、10,534 千台 (8,217 千台・28.2%増) で、前年度より 2,317 千台増加した。
- ・タカタ製エアバッグに関するリコール対象台数は、793 千台 (643 千台・23.4%増) で前年度より 150 千台増加した。
- ・国産車は、229 件 (230 件・0.4%減)、9,889 千台 (7,244 千台・36.5%増) であり、リコールの届出件数、対象台数ともに前年度より増加した。うち、タカタ製エアバッグに関するリコール届出の対象台数は、723 千台 (573 千台・26.2%増) で前年度より増加した。
- ・輸入車は、186 件 (178 件・2.9%増)、645 千台 (973 千台・33.7%減) であり、リコールの届出件数、対象台数ともに前年度より増加した。うち、タカタ製エアバッグに関するリコール届出の対象台数は、70 千台 (69 千台・0.4%増) で前年度より増加した。



過去 10 年間 (平成 22 年度～令和元年度) のリコール届出件数及び対象台数の推移「全体」

## ②車種（用途）別リコール届出件数、対象台数及びその割合

- ・車種（用途）別リコール届出件数について、乗用車（軽乗用車含む。）【241件、全体の52.2%（209件）】、乗合車【25件、全体の5.4%（19件）】、その他【31件、全体の6.7%（21件）】は前年度より増加し、貨物車（軽貨物車含む。）【86件、全体の18.6%（90件）】、特殊車【49件、全体の10.6%（61件）】、二輪車【30件、全体の6.5%（42件）】は減少した。
- ・車種（用途）別リコール対象台数について、乗用車（軽自動車含む。）【9,122千台、全体の86.6%（6,757千台）】、貨物車（軽貨物車含む。）【1,212千台、全体の11.5%（941千台）】、乗合車【45千台、全体の0.4%（44千台）】は前年度より増加し、特殊車【38千台、全体の0.4%（85千台）】、二輪車【99千台、全体の0.9%（368千台）】、その他【18千台、全体の0.2%（22千台）】は減少した。

## ③装置別リコール届出件数及びその割合

- ・原動機【62件、全体の14.2%（61件）】、動力伝達装置【55件、全体の12.6%（48件）】、電気装置【48件、全体の11.0%（46件）】、制動装置【46件、全体の10.6%（41件）】、燃料装置【41件、全体の9.4%（38件）】、車枠・車体【26件、全体の6.0%（40件）】、乗車装置【23件、全体の5.3%（20件）】、灯火装置【28件、全体の6.4%（16件）】、かじ取装置【16件、全体の3.7%（14件）】、排出ガス発散防止装置【12件、全体の2.8%（36件）】、緩衝装置【7件、全体の1.6%（9件）】、走行装置【6件、全体の1.4%（16件）】の順となっており、その他【66件、全体の15.1%（68件）】となっている。

## ④不具合発生原因別の届出件数及びその割合

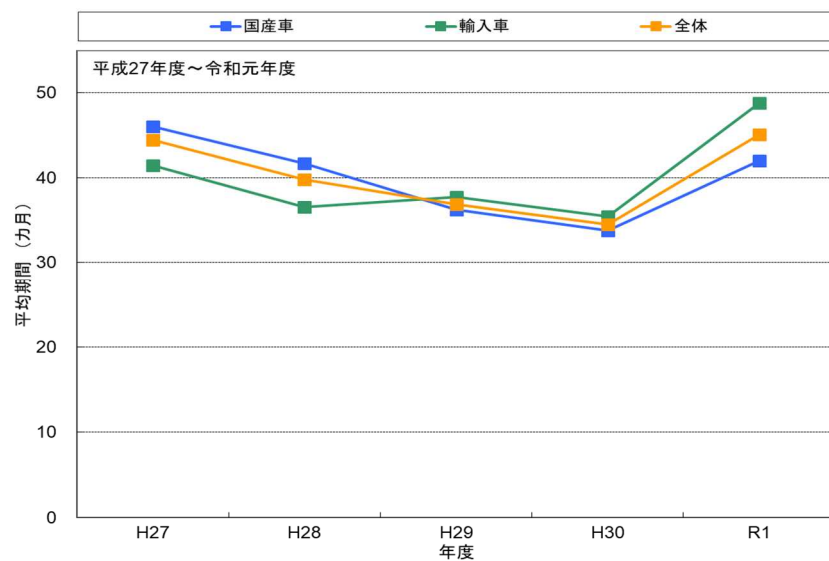
- ・不具合発生原因別のリコール届出件数は、設計に係るものが241件（269件・10.4%減）で全体の56.8%（59.6%）を占め、製造に係るものが156件（151件・3.3%増）で全体の36.8%（33.3%）となっている。
- ・設計に区分される項目で最も多いものは、「評価基準の甘さ」（105件、全体の24.8%）であり、続いて、「プログラムミス」（52件、全体の12.3%）、「開発評価の不備」（31件、全体の7.3%）、「図面等の不備」（23件、全体の5.4%）の順に多いものであった。
- ・製造に区分される項目で最も多いのは、「製造工程不適切」（40件、全体の9.4%）であり、続いて、「作業管理不適切」（30件、全体の7.1%）、「マニュアルの不備」（27件、全体の6.4%）、「保守管理の不備」（24件、全体の5.7%）の順に多いものであった。

⑤生産開始日から不具合発生初の初報日までの期間

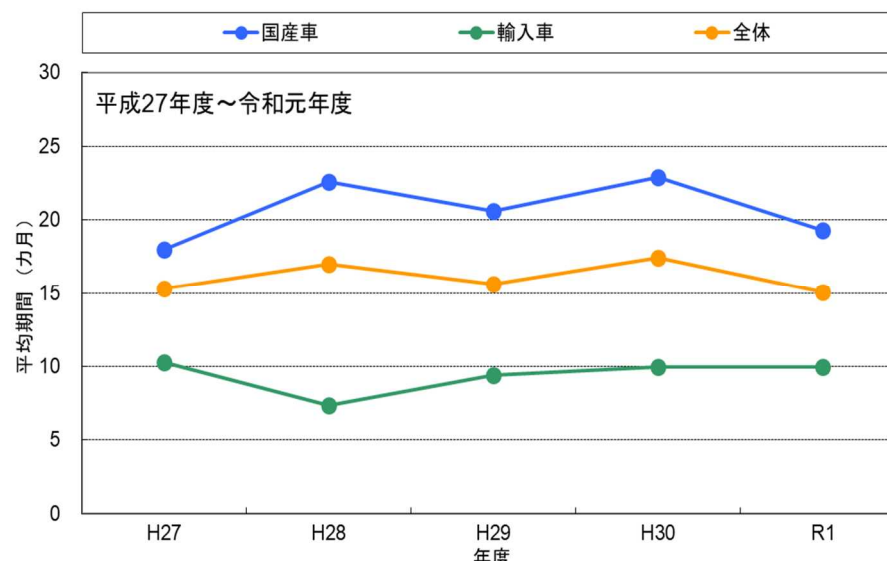
- ・国産車では、平均 42.0 ヶ月（33.8 ヶ月）であり、前年度より長くなった。
- ・輸入車では、平均 48.8 ヶ月（35.5 ヶ月）であり、前年度より長くなった。

⑥不具合発生初の初報日からリコール届出日までの期間

- ・国産車では、平均 19.3 ヶ月（22.9 ヶ月）であり、前年度より短くなった。
- ・輸入車では、平均 10.0 ヶ月（10.0 ヶ月）であり、前年度と同数になった。



生産開始日から不具合発生初の初報日までの平均期間  
(平成 27 年度～令和元年度)



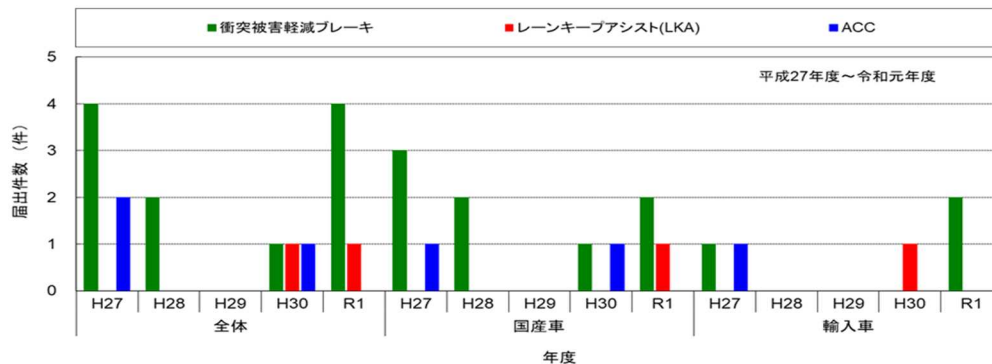
不具合発生初の初報日からリコール届出日までの平均期間  
(平成 27 年度～令和元年度)

⑦電気自動車及びハイブリッド自動車におけるリコール届出件数

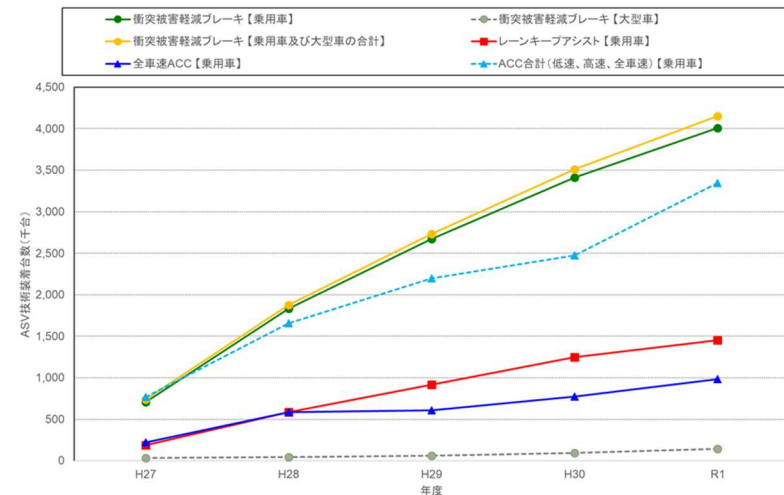
- 令和元年度の車種（用途）別の電気自動車及びハイブリッド自動車の特有の構造等に起因する届出で、「全体」の届出件数の合計は10件（9件）で、国産車は6件（8件）、輸入車は4件（1件）であった。車種別では、乗用車（軽乗用車含む。）は9件（7件）、貨物車（軽貨物車含む。）は1件（2件）であった。
- 令和元年度の装置別の電気自動車及びハイブリッド自動車の特有の構造に起因する届出については、装置は、電気装置、動力伝達装置、原動機、燃料装置及び制動装置の5装置に限られ、「全体」の届出件数が多い順に、原動機5件（3件）、電気装置1件（5件）、動力伝達装置1件（1件）、燃料装置1件（0件）、制動装置1件（0件）であった。

⑧先進安全自動車（ASV）の技術に関するリコール届出件数

- 令和元年度のASVの技術に関するリコール届出については、5件（2件）であった。
- 令和元年度においての対象台数は、8,893台となっている。
- ASV技術の各装着台数は、平成27年以降増加傾向にある。



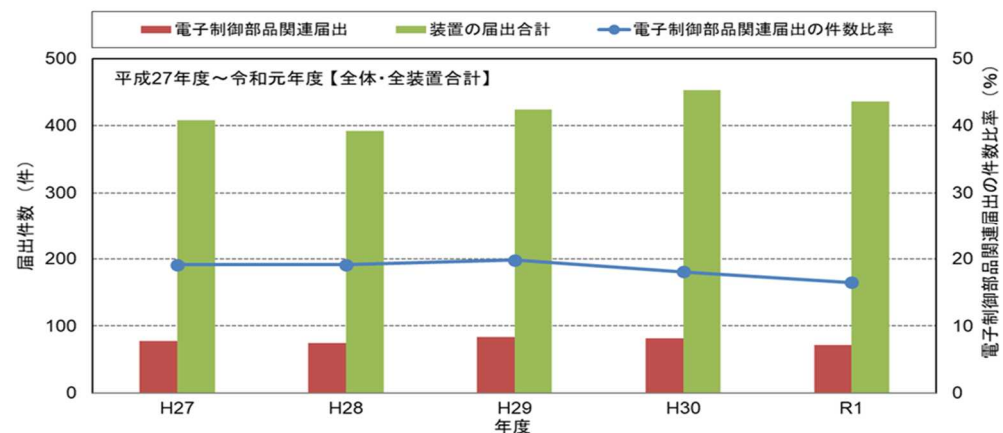
ASV技術に関するリコール届出件数（平成27年度～令和元年度）



ASV技術の装着台数（平成27年度～令和元年度）

### ⑨電子制御部品の不具合に関連する届出についての届出件数及び件数比率

- 電子制御部品の不具合に関連する届出件数の合計は、72件（82件・12.2%減）であり、過去5年間では緩やかな増加傾向にあるが、全体における件数比率は、緩やかな増減で推移している。なお、届出件数は、原動機【28件、全体の45.2%（16件）】、制動装置【11件、全体の23.9%（7件）】、動力伝達装置【8件、全体の14.5%（10件）】、灯火装置【6件、全体の21.4%（4件）】、電気装置【4件、全体の8.3%（10件）】の順となっている。



全装置の合計における電子制御部品関連届出についての届出件数及び比率の推移（平成27年度～令和元年度）

- 電子制御部品の不具合に関連する届出についての不具合発生の初報日からリコール届出までの期間は、平均 7.8 ヶ月（18.5 ヶ月）である。なお、電子制御部品の不具合に関する届出を除く一般部品の不具合に関する届出についての不具合発生の初報日からリコール届出までの期間は、平均 16.5 ヶ月（16.9 ヶ月）である。

## 2. 特定後付装置のリコール届出

- 特定後付装置（タイヤ、チャイルドシート）のリコール届出について、チャイルドシート及びタイヤのどちらも届出はなかった。